

『曾於市の森林事業の現状と今後の課題について』

平成27年4月8日（水）

全国都市会館 第2会議室

皆さん、こんにちは、只今ご紹介いただきました 鹿児島県曾於市の市長であります五位塚 剛 です。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

今日、『曾於市の森林事業の現状と今後の課題について』というテーマで、お話をする機会をいただきました。ありがとうございます。

少し、私の曾於市が、九州のどこにあるか、説明をしたいと思います。

資料1ページに地図で示してあります。

鹿児島県は、指宿方面の薩摩半島と、鹿屋・曾於地域の大隅半島に分かれます。

私の曾於市は、大隅半島で、宮崎県の都城市の県境です。10年前に3町が合併し、現在は39,000人の人口です。

総面積は約390㎢で、田・畑の農地が14%（53㎢）、森林が59%（230㎢）、宅地等が27%（10㎢）程度という、豊かな自然に囲まれた畜産を中心したところです。農業総生産額は、26年度で410億円です。80%が和牛生産・肥育・養豚・ブロイラーなどです。また、焼酎用甘藷・弥五郎スイカ・大根・白菜・里芋・かぼちゃ・ゴボウ・お米など多種になります。ユズは日本一の生産地です。

国会議員は自民党筆頭理事の森山ひろし衆議院議員の地元です。元通産大臣や税制調査会長を歴任されました、故：山中貞則氏の出身地です。

また、野球界では、元広島カープの200勝投手、北別府学氏の育ったところです。画家では、二科会理事長を歴任された故：吉井淳二先生の出身地でもあります。

それでは、本題に入りたいと思います。

市の総面積の59%が森林であると言いましたが、特に杉・桧等が、先人たちが苦勞をして、植林されております。

資料の 3 ページをご覧ください。

南九州地域は、特に立派な杉が植えられております。昭和54年の時、杉の価格が1㎡あたり42,267円でありましたが、永年の歴史の中で外材におされ、平成26年度では1立方メートルあたり9,800円まで落ち込んでおります。ですから、杉・桧を使う住宅建設が全体的に少なくなってきました。当然職人をお願いし、森林組合等に伐採をお願いすると、収益が地主さんに残らない状況が続いておりました。ただ、この2年間ぐらいの間で、杉の活用方法が大きく変わりはじめております。

曾於市のとなりは、志布志市です。この志布志湾から中国・台湾・韓国へ沢山の杉が輸出されております。平成23年度は11,166㎡が、輸出されています。平成25年度では48,350㎡になり、4倍に増えております。

使い方は、コンパネ材の材料やバイオ発電を含めた材料になっているようです。そのため、かなりの早いペースで杉山が全伐されております。

皆様もご承知でしょうが、杉山の伐採は、山林の所有者がその土地の所在地の役所に、届け出だけで許可になります。再造林については義務化になっておりません。お願いのみです。

50年から60年の伐採の適期の木を切る事は、大切であります、その後の植林が進んでいないところに大きな問題があると考えます。

資料にもありますように、曾於市の山林面積の約80%（8割）が人工林です。つまり、山林の所有者が計画的に植林する努力義務があると考えます。

今、国・県の再造林に対する支援事業があり、森林組合の協力のもと私たち曾於市も事業を進めております。

曾於市では、再造林について、1ha（1町部）杉・桧を植えた場合に事業費が69万9,000円掛かります。その内、国・県の補助が68%の47万5,300円です。県の単独補助が60,000円の8.6%,市が単独支援69,900円の10%,地主さんの自己負担が93,800円の13.4%です。

山の地主さんへもう少し支援をしたいのですが、財政的に厳しい状況です。この再造林された後の5年間の下刈作業が、良い杉・桧を作るのに大事な役目があります。この下刈作業へ国からの支援があると、もっと植林が進むものと考えております。

森林の役目は、私たち人間が生きていくための、酸素を供給する大きな仕事をしています。時には、災害を防ぎ、動植物を守る役割もあります。この重要性を、今一度認識する必要性を感じています。

そして、国へ望む事は、この数年間、木の値段が下がったため、家族の中でしっかり相続がされていないことです。つまり、森林の管理もなされていない状況でした。

適期に来ている木も、荒れ放題になっている森林が相当増えているようです。このような手続きに対しては、簡素化できる対策を望むものです。

そして、木の持つ素材を活かした住宅建設に対して、宣伝と支援を強化してほしいと思います。

また、森林事業においては、この10年間で大きく変わっているようです。昔は、各地域で製材所が何軒もありましたが、家族経営方式の製材所は、ほとんどが無くなってきております。

国の強い林業、木材産業・構築事業の木材加工施設の建設ができる補助金は、全国の自治体の強い要望があるようです。

今まで3カ年の基金運用で、各県への配分で多くの林業関係者が利用されております。

この基金運用についても、今までより、有効かつ効率的利用ができるよう強く対策を望むものです。

資料5ページにもありますように、林業関係用の大型機械の補助申請が増えてきております。セラパンチャー、プロセッサの導入は、森林組合、また、民間企業への支援として、国のこの制度は、たいへん喜ばれ重要な役割をしております。今後も特段のご配慮を望みます。

鹿児島県の地元新聞の特集記事も、資料として配付してあります。国外への輸出、バイオマス事業などの増加で、鹿児島県産の材木需要が急激な伸びを示しております。再造林推進事業は『待ったなし』の状況であることをお互いに認識をお願いするものです。

私は、平成25年7月に市長に就任いたしました。

前市長が、山林を中心に13億5千万円かけるフラワーパーク花公園事業を計画いたしました。この事業について、市民の意見が分かれ、結果的にこの事業の中止を掲げた私が当選いたしました。

しかし、約32haの土地の取得がされているため、この跡地利用が大切なところです。私は、都城市内の材木業者の企業誘致を現在進めているところです。この企業も、国の支援がないと立地できませんので、引き続き農水省の林野庁の頑張りも期待しているところです。

最後に私たち曾於市も、ふるさと納税事業において、寄附金の約半額をお礼として、特産品を返礼する事業を、昨年9月からスタートいたしました。4ヶ月で、全国各地の1万3千人の方から2億4千万円の支援をいただきました。

私たちの地域は、鹿児島黒牛・鹿児島黒豚、ハム・ソーセージなど、美味しい食材が豊富にあります。大好評です。

本日お集まりの皆様は、国にも自治体に対しても高額納税者だと思います。お手元に、昨年パンフレットを配布してあると思います。まず、1万円から私のまち、曾於市へ寄附をしてみてください。

本当に美味しい牛肉のしゃぶしゃぶセットなどを送りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

短時間ではありましたが、ご静聴ありがとうございました。